

【 モバイル衛星通信機器（スターリンク）の配備 】

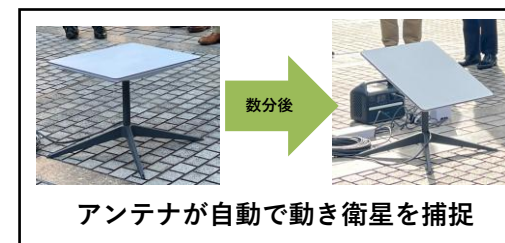
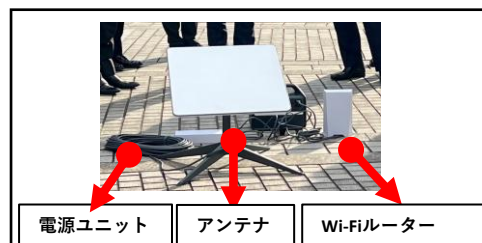
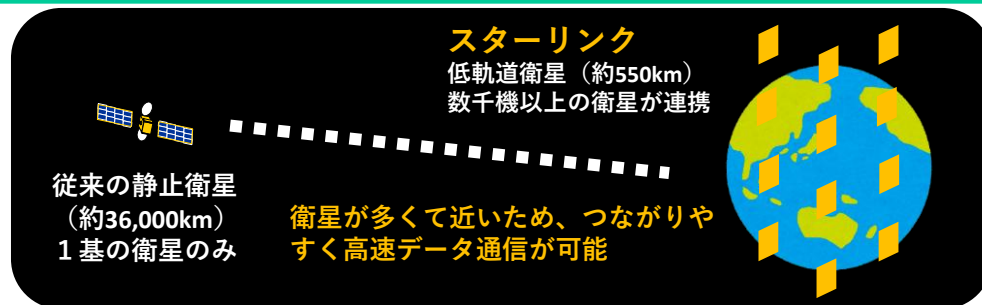
東京都は、災害発生時等における通信手段の確保を目的として、令和6年度に西東京市を含む各区市町村に1基ずつ可搬型のスターリンクを導入した。

■ 概要

- (1) 機能
低軌道を周回している5,000機以上の衛星とアンテナを接続することで、インターネット接続が途絶した被災地でも通信手段を確保することができる。
通信範囲は半径7m程度。
- (2) 用途
発災時の使用を想定。平時でも訓練を含む日常的な使用が推奨。
- (3) 費用
都が初期費用及び通信費用（固定料金）を負担。

■ 活用方法

災害対策本部における通信手段の確保のために利用することを想定（定期的な利用訓練の実施）



【 東京都帰宅困難者対策オペレーションシステム（通称「キタコンDX」）について 】

東京都では、首都直下地震等の発災時にGPS情報等を活用し、帰宅困難者に対してリアルタイムに情報を発信する「東京都帰宅困難者対策オペレーションシステム（通称「キタコンDX」）」を開発し、令和7年3月から運用を開始している。

【機能①】災害対策本部を支援する「作戦地図」機能

都内の混雑状況や鉄道運行情報、SNSでの被害投稿情報等をリアルタイムに可視化し、地図上に重ねて表示することで、発災後、直ちに自治体や関係機関による迅速・円滑・正確な状況把握を可能にし、効率的な作戦立案や情報共有を支援する。



作戦地図（イメージ）

【機能②】一時滞在施設を支援する「施設運営管理」機能

帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設が実施する、発災時の自治体あての報告や帰宅困難者情報の集約にかかる作業について、デジタルフォームを活用することで省力化。さらに本システム上のチャット機能でコミュニケーションも行うことができ、災害対策本部や現場の負担を軽減する。



施設開設報告画面



チャット画面

【機能③】帰宅困難者を支援する「情報発信」機能

本システムが有するLINE公式アカウントを友だち登録することで、発災時に帰宅困難者の周辺で開設中の一時滞在施設をスマホから検索することができる。また、一時滞在施設の入館手続きがスマホから可能。

さらに、連携する東京都防災マップや東京都防災アプリからも、混雑中の箇所や一時滞在施設の開設状況等を確認することが可能。

